



森・川 薫る  
野洲の地に  
通える高専  
つながる高専



Copyright © Yasu City. all rights reserved

## 高等専門学校を設置場所の検討について — 経過 —

- 令和3年12月 「令和の時代の滋賀の高専」構想骨子（素案）  
有識者懇話会や関係者との意見交換、県庁内での検討を踏まえ、まとめられた構想骨子の素案を公表
- 令和4年1月 高等専門学校を設置場所の検討について  
設置場所の決定方法や選定までの手順を公表
- 令和4年3月 「令和の時代の滋賀の高専」構想骨子  
「令和の時代の滋賀の高専」構想骨子を策定
- 令和4年5月 (仮称)滋賀県立高等専門学校用地選定基準  
「(仮称) 滋賀県立高等専門学校 用地選定基準」を策定、公表
- 令和4年6月 最適な県有地を選定  
野洲市の県有地を最も適した県有地として公表



## 【最適県有地の選定結果】

旧野洲川（野洲市市三宅）とする。



地理院地図より作成

- ・交通アクセスに優れ、全国の高専の空白地帯を埋める位置に立地することから、県内各地をはじめ、県外からの通学生も期待できる。
- ・また、周辺にはグローバル展開を図る事業所が立地し、それらの企業の教育面の協力や技術者同士の交流などにより、先端的な学びの成果の県内全域への波及が期待できる。
- ・一方で、細長い形状の校地は設計・建築上の制約条件となるおそれがあり、校内での移動時間への影響などが懸念される。

なお、今回の選定結果にかかわらず、県有地を含めた市町からの追加的な提案を認める

例：県有地の横の市町有地・民有地と一体となった提案

県有地付近の市町有施設の活用提案

県有地での学校運営に関する市町独自の支援、経済界の支援 等

## 高等専門学校を設置場所の検討について — 今後の予定 —

- 令和4年6月 県が選定した最適県有地以上の提案地を募集
    - ① 6月15日までに県の担当課に提案地の有無を回答
    - ② 7月8日までに県の担当課に提案地の詳細な情報を記載した様式を提出
- ↓
- 最適県有地と市町提案地の比較検討
- ↓
- 事務局の採点案について、選考懇話会に意見を求めた上で、事務局で選定



**設置場所の決定（8月頃）**







# 位置図





# 駅からの経路





現況図





## 配置イメージ



※国有地を活用するにあたり、校舎や体育館、グラウンドなどの配置をイメージした図です。



# 「令和の時代の滋賀の高専」構想骨子 概要①（ひとづくりとしての学びの方向性）

1

- 新高専を軸に、人材育成→地域への技術実装→技術への関心・憧れ、という好循環の創出に挑む
- 情報技術\*各産業分野に通ずる学びに加え、多様な学びの機会を提供し、実践力も育む
- 1学科4コース制で、1年次は混成学級、2年次からコース選択という学びの体系

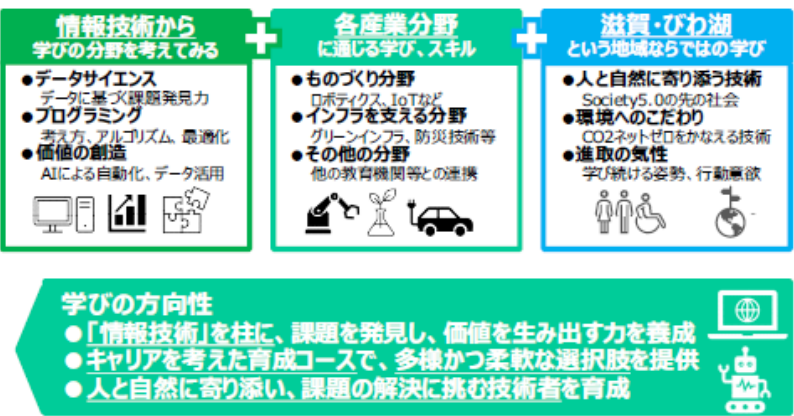
## ◆新高専の設置意図



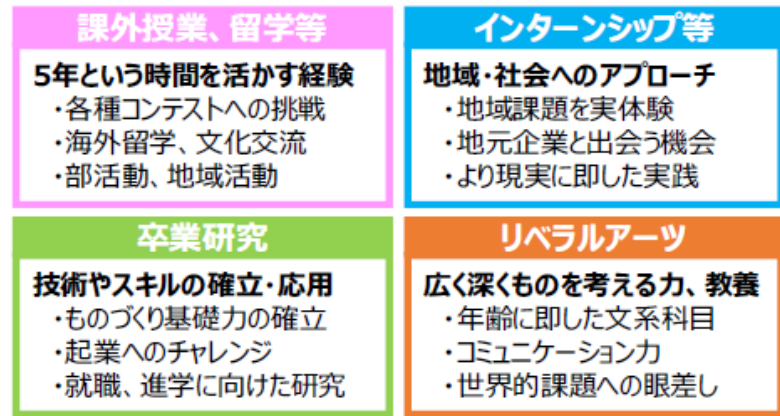
## ◆学びの専門分野（工学の実装領域はn次産業化）



## ◆学びの方向性



## ◆学びの拡がり





- 入学定員は120名、公立大学法人滋賀県立大学が運営
- 高専に技術者交流・育成のハブ機能を備えることで、地域とともに高専自体もアップデート
- 設置場所は、用地の広さや周辺環境、連携先等を勘案して来夏に決定、令和9年春の開校を目指す

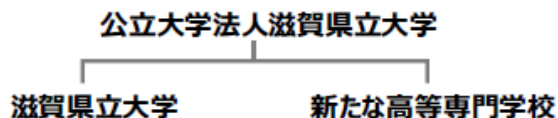
## ◆学校規模について

入学定員120名（3学級）、学校全体で600名  
（志願倍率2倍程度を想定）

教員数：約50名、職員数（事務・技術）：約40名

## ◆設置主体について

「公立大学法人滋賀県立大学」とする



## ◆経費のイメージおよび場所の要件(案)

＜施設整備費＞ (寮を除く) 単位：百万円

A：施設整備費	7,200
B：設計監理費	360
C：その他経費	2,440
合計（A+B+C）	10,000

＜運営費＞ 単位：百万円

A：収入	200
B：支出	900
収支差額（A-B）	700

※全国類似高専における平均値から算出

＜場所の要件＞ 比較項目例

校地要件	土地の規模 土地の法令上の要件 土地の安全性
周辺要件	学びの場所としての魅力 周辺の理解 教育上のふさわしさ
連携要件	他の教育機関、産業界、 地域との連携
コスト要件	整備・運営費の低減
交通要件	通学の容易性

## ◆高専を技術者交流・育成のハブに

例えば・・・

- 企業の学びへの参画、大学連携講座等
- 技術系のリカレント教育
- 企業との共同研究、課題解決コンテストなど
- 技術系ならではの図書館デザイン
- 小中学生への「ものづくり体験」

…etc.

➔ 技術をテーマとした「広場」をつくることで、  
地域はもちろん、高専自体もアップデート



## ◆今後のスケジュール（PFI手法を導入）

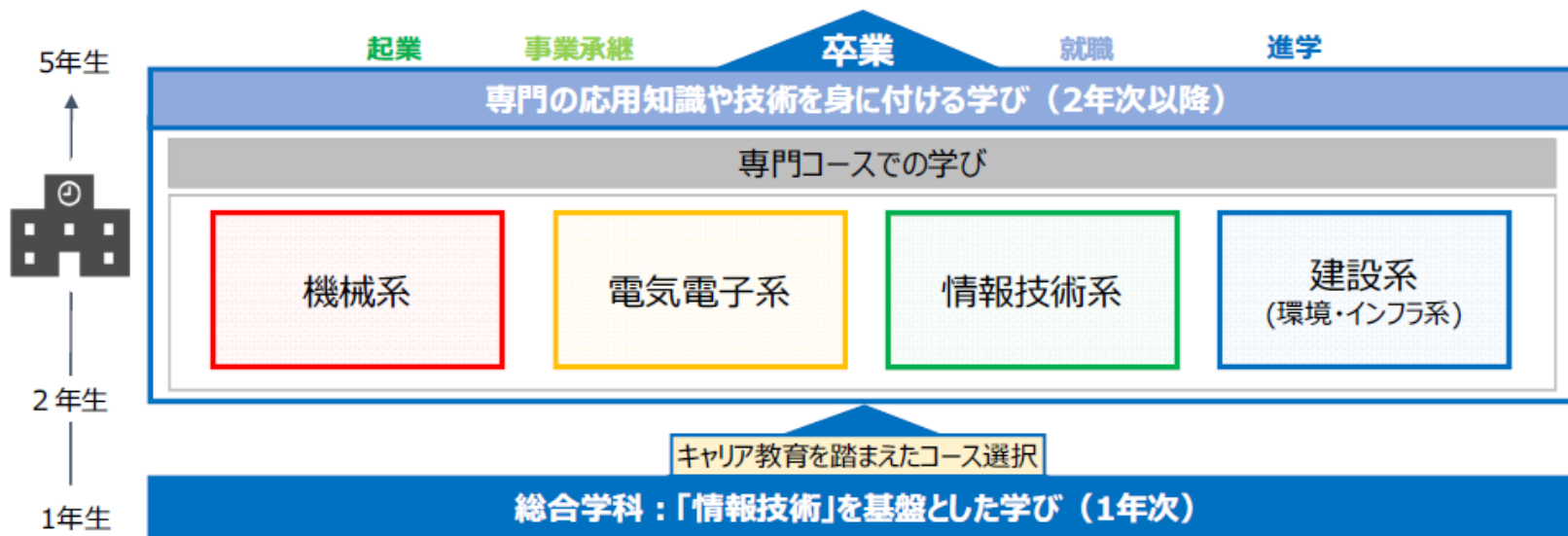




## 2. 学びの分野 : 学びの専門分野

8

- 1学科4コース制：1年次は情報技術の考え方を基礎として学び、2年次以降、これに掛け合わせる形で、機械・電気電子・情報技術・建設の専門コースにより応用専門知識・技術を身に付ける柔軟な学び



一つの分野の学びだけでなく、意欲に応じて他の専門分野を掛け合わせ、さらに専門以外の多様な学びにつながる柔軟な学習環境を提供



※複数の専門の学びを掛け合わせて学習することができることを前提としつつ、具体的な内容や方法は今後検討